



Title	Osaka Literary Review 掲載論文一覧(1962－1990)
Author(s)	
Citation	Osaka Literary Review. 1991, 30, p. 5-21
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/25436
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Osaka Literary Review

掲載論文一覧 (1962—1990)

No. 1 (1962)

- 斎藤俊雄 *The Anglo-Saxon Chronicle* の Parker MS に見られる関係代名詞について
- 藤田実 シェイクスピア史劇における‘crown’の観念
- 藤井治彦 *Lycidas* —ひとつの解釈
- 渡辺孔二 スウィフトのプライド観 (I)
- 藤田繁 *The Return of the Native* に於ける葛藤について
- 森晴秀 *The Rainbow* の構造——イメージの発想及び錯綜と展開
- 梅垣清 S. Anderson: *Winesburg, Ohio*
- 竹内孝治 小説の視点とウイリアム・サマセット・モーム —「木の葉のそよぎ」と「キャジュアライナの木」を通して—
- 栢田良一 realism から expressionism へ — Sean O'Casey の場合—

No. 2 (1963)

- 石田久 *Antony and Cleopatra* について
- 藤田実 Shakespeare 史劇研究の一つの方向 *Richard III* の場合
- 渡辺孔二 スウィフトのプライド観 (II) — *The Battle* の場合—
- 梅垣清 J. エドワーズの「超自然的人間」
- 栢田良一 J. M. Synge: *Riders to the Sea* における‘reality’

- 森 晴 秀 芸術の崩壊——「エアロンの杖」と「カンガルー」の思想と表現
- Haruhiko Fujii JAPANESE POETRY AND WESTERN CRITICISM (書評)
- No. 3 (1964)
- 今 井 光 規 *Beowulf* に見られる Nominal Compounds について
- 石 田 久 G. Chapman の悲劇 —〈その1〉 *Bussy D' Ambois* の問題点
- 梶 原 幸 夫 Enter Barnardine—*Measure for Measure* 試論—
- 平 井 隆 *Absalom and Achitophel* の Satirical Method
- 渡 辺 孔 二 スウィフトのプライド観 (III) —「スウィフト家のエピソード」—
- 柏 木 俊 和 W. Blake の詩に於ける 'night' —*Songs of Innocence* と *Songs of Experience* を中心に—
- 栢 田 良 一 J.M.Synge の喜劇における 'reality' —現実と夢の調和—
- 今 沢 達 *Howards End* にける 'horror' について
- No. 4 (1965)
- 藤 田 実 Shakespeare 史劇における儀式的要素 (I)
- 梶 原 幸 夫 Lucio の運命 —続 *Measure for Measure* 試論—
- 渡 辺 孔 二 スウィフトのプライド観 (IV) —「樞物語」の場合
- 柏 木 俊 和 W. Blake: *The Book of Urizen* について
- 神 保 菰 *The Cenci* について
- 佐 藤 芳 子 'The Eve of St. Agnes' —その背景と意義—

- 藤 田 繁 *The Dynasts* の一考察—Immanent Will, Spirits, Man の関係をめぐって
- 栢 田 良 一 J. M. Synge: *Deirdre of the Sorrows* — 「美」と「現実」の問題—
- 今 沢 達 人間関係の形而上学: *The Longest Journey* 論
- No. 5 (1966)
- 渡 辺 孔 二 スウィフトのプライド観 (V) — 「ガリバー旅行記」を中心に—
- 高 橋 弥 生 *The Dynasts* に於ける「意志」の世界の芸術的表現—Spirits—
- 筒 井 均 *A Passage to India* の主題と方法
- 植 田 和 文 「ガザに盲いて」について—その構成と記憶の問題—
- 吉 田 一 彦 All you do is (to) press the button の語法について
- 藤 井 治 彦 平井正穂著『イギリス文学試論集』研究社 昭和40年 (1965年) (書評)
- Suzuna Jimbo A Scientific Approach to Shelley's Poetry—An Introduction to *Shelley and Synesthesia*—
- No. 6 (1967)
- 渡 辺 孔 二 *The Drapier's Letters* をめぐって
- 吉 田 一 彦 「Not that I know of.」の語法について
- 丸 谷 満 男 日英語比較の一構想—翻訳基礎論の試み—
- 河 上 誓 作 特殊な“S+V+O”構文における目的語およびその修飾語の機能について
- 大 橋 慶 子 Whitman における南北戦争の意味

- 飯田 才太郎 補語と副詞
 岩 倉 国 浩 英語“S+V+O”と日本語「～を一する」、「～に—する」

No. 7 (1968)

- Kazuhiko Yoshida *Onomatopoeia and Repetition*
 丸 谷 満 男 比較の意味論的考察—特に命題選択比較について
 岩 倉 国 浩 英文構造の透明化傾向について—語用論的意味論の立場から
 小 谷 晋 一 郎 口語英語に於ける「～したほうがよい」の表現について
 西 川 盛 雄 意味の形成と構造について
 山 本 哲 *Intruder in the Dust* 評価への道
 筒 井 均 イタリア人の子供のこと—“The Eternal Moment”と *Where Angels Fear to Tread*
 山 田 勝 オスカー・ワイルド研究：「芸術における嘘の問題」
 鈴 木 俊 司 ポー短編小説の評価（1）

No. 8 (1969)

- 岩 倉 国 浩 英語の be についての一考察
 Shinichiro Kodani THE SIMPLE IMPERATIVE
 鈴 木 俊 司 言語に関する二つの覚え書
 石 田 久 G. Chapman の悲劇—〈その2〉
 高 橋 弥 生 ハーディとバトラーの比較
 森 道 子 Milton とギリシア悲劇
 山 田 勝 オスカー・ワイルド研究：身辺の芸術（1）
 山 本 哲 現実と理想の間

前 波 清 一

ジョン・オズボーン (上)

No. 9 (1970)

小 谷 晋 一 郎

Attributive Adjective の一考察

西 川 盛 雄

表現論 (Adv-Adj-Nom 構文について)

福 井 三 奈 子

Middle English *Amis and Amiloun* と Anglo-Norman *Amis e Amilun* についての一考察

平 井 明 子

Marlowe の世界

森 道 子

Paradise Lost における epic simile に関する覚え書

渡 辺 和 子

Jane Austen 研究—Bath 時代の創作姿勢をおって—

Itsuyo Higashinaka

The Role of Food in Byron's *Don Juan*

山 田 勝

オスカー・ワイルドにおける PURPLE の意味

伊 豆 大 和

Steinbeck と *East of Eden*

前 波 清 一

アーノルド・ウェスカー—ユートピアと現実演劇—

No.10 (1971)

西 川 盛 雄

Synonymity 考

島 田 守

「不定詞付対格」構文の統語分析

加 藤 主 税

反対動作と動詞の否定辞

福 井 三 奈 子

Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

宮 川 朝 子

Mystery Plays に見られる Herod 像

Itsuyo Higashinaka

Byron's Triangle—Byron's View of Wordsworth and Coleridge—

玉 井 暲

『ドリアン・グレイの肖像』論—ワイルドのゆれ動く自己—

No. 11 (1972)

- Kunihiro Iwakura A Phonological Analysis of Numeral-Counter Compounds in Japanese within the Framework of Generative Phonology
- 加藤主税 Structural Synonymityと言語理論
- 寺村昇自 Modalityの意味論的考察—序論
- 宮川朝子 Mystery PlaysのMary Magdalene
- 平井明子 “This Unnatural Scene”—*Coriolanus*の一考察
—
- 坂本武 A Political Romanceの問題—Sterneにおける《書くこと》のはじまり
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性——(1) テーマについて
- 玉井 暲 アーサー・シモンズにおける象徴主義——(1) 不安感から象徴主義へ
- 植苗勝弘 *Jude the Obscure*の一考察
- 三浦良邦 ハックスリーの探求 (1) ——初期小説について
- Kazuhito Hayashi Ezra Pound's *Cathay*

No. 12 (1973)

- 加藤主税 動詞の aspect feature について
- 長谷川 存古 完了形について
- Tsuneo Hase On the ‘Temptation Scene’ of *Othello*
- 仙葉 豊 「宗教人」Robinson Crusoe
- 藺村喜次 「深夜の霜」—その形式と想像力
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性と差異性—(2) 共通の詩行について—その1

- | | |
|-------|--|
| 後藤 秀子 | トロイラスとポエチウス |
| 小林 恵子 | <i>Vala or the Four Zoas</i> ——Blake における思想的変遷 |
| 蘭村 喜次 | 水夫の〈祈り〉と〈喜び〉 |

- 木村成子 ジョージ・エリオットのヘロイン達：ロモラ、ド
ロシア、グエンドレン（I）
- 瀬屋素子 四つの“party”——Virginia Woolf の中期三小説
における“moment”
- 川口能久 *The Power and the Glory* における手法とその象
徴性
- 松阪仁伺 ポー短編小説の側面（1）
- 山田美知子 *To a God Unknown* 一考察

No. 15 (1976)

- 沖田知子 状態変化動詞の意味構造
- 森田繁春 言語学と文学の交わり—構造的文体論一試考—
- Kazuko Watanabe *Time in Oedipus Rex and Macbeth*
- 仙葉豊 *Roxana* の主題と構成
- 小林恵子 *Milton* 一考察
- 安藤幸江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同
一性と差異性—（2）共通の詩行について—その3
- 西前孝 ウィンタボーンへの視点—H. ジェイムズ‘Daisy
Miller’考—
- 瀬尾素子 後期小説への模索—*Orlando* 一考察
- 白川計子 サミュエル・ベケット論—『名づけえぬもの』を
素材にして—

No. 16 (1977)

- 加藤主税 2種の「はじめ」について—日英語比較研究—
- 堀田知子 意志と意図

- Shigeharu Morita A Structural Analysis of Dylan Thomas's
"The force that through the green fuse drives
the flower"
- 高田 ちさ子 少女エリザベスをめぐって John Donne, *The
Anniversaries* 研究
- 斎 藤 隆 文 ワーズワスにおける風と想像力
Yoshihisa Kawaguchi Personal Relationships in *Howards End*
- 松 阪 仁 / 伺 ポー短編小説の一側面 (2)
- No. 17 (1978)
- 長谷川 存古 「発話関数」試論
- Isao Higashimori ON SYNTACTIC, SEMANTIC AND PRAG-
MATIC PROPERTIES OF *POSSIBLY* AS A
SENTENCE ADVERB
- Taisuke Nishigauchi Notes on Logical Form and Types of Corefer-
ence
- 堀 恵 子 William Blake の統合的芸術作品, *The Marriage
of Heaven and Hell*
- 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同
一性と差異性— (2) 共通の詩行について—その 4
- 米 本 弘 一 スコットの非合理的世界—『ラマムアの花嫁』に
おける超自然的なるもの—
- 白 川 計 子 Samuel Beckett 論—*Happy Days* 考—
Shigeo Suzuki THE ORDER OF THE EXTRAORDINARY
EXPERIENCE IN *BENITO CERENO*

- Isao Higashimori ADVERBIALS, IMPERATIVES AND PRAG-
MATIC CONDITIONS
- Yasuhiro Ieki NOTES ON THE PLUPERFECT WITH SPE-
CIAL REFERENCE TO 'PHASE'
- Keiko Kakuta Transitive vs. Intransitive Prepositions
- Yoshiaki Kashimoto On the Semantic Contrast between Epistemic
May and *Can*
- Taisuke Nishigauchi QUANTIFIERS, INFERENCE, AND VARI-
ABLE BINDING
- Kiyoshi Miyagawa MEMORY IN *THE PRELUDE*
- 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同
一性と差異性— (3) 「ハイピアリアン」独自の詩
行について——その1
- 西 前 孝 自己との対峙—H.ジェイムズ『ある婦人の肖像』
第42考
- 森 岡 裕 一 シャーウッド・アンダソンの処女作—『ワインズ
バーグ・オハイオ』への道—
- Keiko Fujie HEMINGWAY AS A TECHNICIAN IN A
FAREWELL TO ARMS
- 三 浦 良 邦 『多くの夏を経て』について—神秘主義思想を中心
に—
- 田 口 哲 也 或る遁走—T. S.エリオットの詩に現われる—海
と鷗に関するノート
- No. 19 (1980)
- 沖 田 知 子 進行形の原理
- 家 木 康 宏 Phase と Aspect
- 竹 鼻 圭 子 動詞小詞結合と有標語順

- 村 主 幸 一 新しい共同体の出現—*King Lear* のヴィジョン
—
- Chisako Aramaki The Pilgrimage with Paradox
- Kiyoshi Miyagawa Creative Sensibility in Wordsworth's Poetry
- 米 本 弘 一 スコットの調和のヴィジョン—Guy Mannering
論—
- 植 苗 勝 弘 ハーディの短篇小説にみられるエロチシズム
- Keiko Oshio The Sense of Parody in *Ulysses*
- 田 口 哲 也 不毛の地の犬—エリオットのニヒリズム—
- Keiko Fujie Hawthorne's Light & Dark in *The Scarlet
Letter*
- Yuichi Morioka The American Dream & The Grotesque—The
Novels of Nathanael West—

No. 20 (1981)

- 藤 井 治 彦 あの頃の私たちのこと
- 藤 田 実 *Prelude* と *Osaka Literary Review*
- 石 田 久 *O. L. R.* 発刊20年に寄せて
- 枡 田 良 一 *Osaka Literary Review* 誕生
- 森 晴 秀 創刊当時を思う
- 梅 垣 清 創刊号のころ
- 東 森 勲 Not+Still について
- 柏 本 吉 章 述語の断定性と補文の文性
- Mari Sakaguchi A Phrasal Analysis of Passive Constructions
- Keizo Nomura THE *THAT*-CLAUSE REVISITED
- 田 口 ま ゆ み 『ガウイン卿と緑の騎士』における象徴性と宗教性
- 村 主 幸 一 溶解する宮廷—*The Tempest* と宮廷神話

- Kazuhiko Murai Strumpet Fortune: A Study of Shakespearean Tragedy
- 鈴木 繁 夫 「強き強者」と「弱き強者」—ミルトンの二つの人間像—
- 安 藤 幸 江 「ハイピアリアン」と「ハイピアリアンの没落」の同一性の差異性— (3) 「ハイピアリアン」独自の詩行について—その2
- 小 野 慶 子 テニソンと海
- Keiko Harada Dramatic Aspects of Eliot's Poetry
- 藤 江 啓 子 *The House of the Seven Gables* における Hawthorne の時間
- 大 塩 恵 子 Wallace Stevens の海の寓話
- Katsuaki Watanabe Hemingway and the Ritual
- No. 21 (1982)
- 森 田 繁 春 詩的隠喩に関する覚え書
- 川 越 い つ え 英語語強勢決定のメカニズム—強勢型と音節の重さの関係—
- 村 井 和 彦 Shakespeare 悲劇における 'plotter' たち
- Kaori Yamatsu Miranda as a "Maid"
- Takako Haruki Keats through his use of metaphors in *Isabella*, *The Eve of ST. Agnes* and *Lamia*
- 新 野 緑 *Bleak House* の空間—Lady Dedlock を中心として—
- 川 口 能 久 蠅の王と四人の少年たち
- 松 阪 仁 伺 森とカーニヴァルの世界—ホーソーンの "The May-pole of Merry Mount" 論—
- Keiko Fujie To Regain Paradise by Lifting a Veil

No. 22 (1983)

家 木 康 宏

Already, Now と「局面の変化」

川 越 い つ え

文強勢型と韻律理論—非語彙項目の取り扱いをめ
ぐって—

由 本 陽 子

使役表現の選択に関わる意味素性

Asako Miyagawa

Dualism in *The Castle of Perseverance*

山 津 か お り

The Winter's Tale 試論——Perdita 発見

服 部 典 之

Roderick Random における二重逆転構造

春 木 孝 子

キーツの人格化の比喩—“Ode on Melancholy”と
“To Autumn”をめぐって—

Keiko Ono

Dreams in *In Memoriam*

Katsuaki Watanabe

Henderson the Rain King: Bellow's Festival

No. 23 (1984)

野 村 恵 造

ヴィトゲンシュタインとオースティン—語の意味
論と文の意味論—

堀 環

補文選択の意味的考察

Mari Takahashi

Children's Misinterpretation of OS-relatives

The VP-attachment Analysis

富 永 英 夫

Before 節の時制構造に関する一考察

山 津 か お り

『お気に召すまま』試論—愛の空間と帰還—

針 木 蓮 一

The Parish とクレアの社会批判

新 野 緑

二つの円環—*Hard Times* の空間構造—

服 部 慶 子

おとぎ話の鏡像としての“Balin and Balan”—
Idylls of the King 考察—

Keiko Oshio

The Revisionist Voice of T. S. Eliot in the
“Notes” Toward *The Waste Land*

Chiyo Yoshii Isabel's Self-education in *The Portrait of a Lady*

No. 24 (1985)

Mari Sakaguchi The Acquisition of Passives

Mari Takahashi More On the VP-attachment Analysis of OS-relatives

刀 衿 雅 彦 時間表現の意味構造とその分析

山 津 か お り プリトマート考察—甲冑と金髪との間で—

佐 野 隆 弥 『終わりよければすべてよし』試論—病いと治療をめぐって—

Keiko Harada Edward Thomas : Time and Modern Sensibility

Masaki Shibata Reading and Misreading *Ulysses*

好 井 千 代 剰余の力学—*What Maisie Knew* 一考—

No. 25 (1986)

由 本 陽 子 *Un-*派生語の逸脱性について

Keiko Harada "At death, you break up"—Philip Larkin's struggle with mortality—

服 部 慶 子 Arthur 王の死——*Idylls of the King* 考

渡 部 充 線的世界からモザイク的世界へ—『四つのゾア』とブレイクの時間

好 井 千 代 *The Princess Casamassima* における曖昧性の意味

No. 26 (1987)

東 條 良 次 情報価付与と修正関係

梅 原 大 輔 Small Clause と補部選択

- Masumi Matsumoto A Study on the Prepositional Passive
- 柴田正樹 「さまようこと」の意味—『間違いの喜劇』試論—
- 冨田成子 *Romola* とルネサンス絵画
- 植苗勝弘 'Old Mrs Chundle' 私論
- Keiko Harada History in Layers The Sense of the Past in Thomas Hardy's Poetry
- Yoshio Ise The Discrepancy of Marlow's Narration: Romanticism and Utilitarianism in *Lord Jim*
- No. 27 (1988)
- 梅原大輔 英語における時制の不一致—Anchoring の視点から—
- 田岡育恵 副詞類の出現位置について
- 溝手真理 愛のヒエラルキー—『妖精の女王』第三巻・四巻一考—
- Sayuri Yamatsu Respect and Concord: A Study of *A Midsummer Night's Dream*
- 小島裕子 *Richard II* における「王」という名前についての一考察
- 渡部 充 無化する詩人 —『ミルトン』におけるブレイクの自己回復—
- Reiko Uno The Leaf-encumbered Forest: Mrs Dalloway's Ego
- 伊勢芳夫 *Nineteen Eighty-Four* における Orwell 的反動
- Keiko Oshio Benjy Compson and the Crisis of Articulation: Two Post-Modern Readings of *The Sound and the Fury*

No. 28 (1989)

濱 本 秀 樹

感情形容詞のファジィ理論による分析

吉村 あき子

yet についての一考察 —yet, already, still, any more, と「まだ」と「もう」—

白 谷 敦 彦

IT-cleft 対 WH-cleft—語用論的研究—

Umehara Daisuke

On the Licensing of Perception Verb Complements

大 森 文 子

提喻に関する一考察

田 岡 育 恵

「譲歩」の *When* と「時」の *When*

東 條 良 次

文法関係と語順—視点理論との関連で—

溝 手 真 理

崩れ落ちる要塞—『羊飼の暦』試論—

Yoshiko Imagawa

Degeneration and Irony in Doctor Faustus

山 津 さ ゆ り

修辞と行為—『マクベス』試論—

Keiko Oshio

“The Magi” and Modernist Imagery

伊 勢 芳 夫

Jim と Kurts—Marlow 船長の語りに隠されたこと

宇 野 玲 子

創作への意思—*Jacob's Room* 試論

No. 29 (1990)

早 瀬 尚 子

「鬼」はどこから来たか

Hiroyuki Ura

A NOTE ON INFINITIVAL COMPLEMENTATION IN ENGLISH

濱 本 秀 樹

形容詞の比較級について

吉村 あき子

ever についての基礎的考察

岡 田 禎 之

結果の二次的述語の拡張行為について

Atsuhiko Shiratani

RESTRICTED USE OF CLEFTS IN DISCOURSE

- 光 原 百 合 修辞学的逆説の分析——アイロニーとの関連から
- 山 崎 英 一 関連性理論における疑似条件文
- Mari Takahashi The Acquisition of Echo Questions
- 山 津 さ ゆ り 『オセロー』試論 —知性と情動—
- Miyoko Murai The Metamorphosis of La Belle Dame sans
Merci
- Yuriko Nishimura A Story in Search of its Meaning: Conrad's
Heart of Darkness
- 伊 勢 芳 夫 価値と視点——*The Good Soldier* のレトリック
- HARUKI Takako ABSENCE AND PRESENCE IN THE
POEMS OF PHILIP LARKIN
- Mizuho Ota Completing a Circle: Alice Walker's *Meridian*